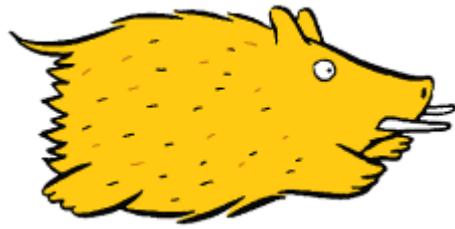




# トマゾン隊じゃないから



皆様の蓋編

by うさお

またまた番外編でとなりますが、今回はTomyJr.さんと和ちゃんから、こんな蓋がありましたと送っていただいたので、番外編として載せさせていただきます。Tomy Jr.さんからは以前も頂いてお礼を有難うございます。しかし、世の中はシンクロニティというものがあるのか期せずしてお二人からデータを頂きました。日出彦さんは柄のある蓋だけを集めておられますが、うさおは手当たり次第、無差別に集めておりますので、マニアでないというか、凝りが見えないと言うか、ごめんなさいってな訳で（何が〜？）紹介させていただきます。



↑ まずは、こんなのありかって言うレール跡。昔の貨物線の操車場跡地なんですが、「アイガーデンテラス」と言いまして、飯田町貨物駅の跡地です。わたくし事ですが、うさおの会社の50周年の記念行事をここで行いました。本物のレールではなく敷石でレールを表しているため、情感はほとんどありません。（蓋じゃ無いじゃん）

さてもう一つは、品川駅の構内にある郵便ポストだ。御覧のようにまるで東海道線の113系の列車を模した郵便箱。図体は結構大きく、台車は鉄トロと呼ばれる簡易トロッコのものを使っている。どう見ても製作費は人件費を除いて、100万円を超えている。



続いて、TomyJr.さんから頂いたこの2枚。新宿区荒木町で採取されたもの。真中に東京都の桜の花があしらっているが、周りの亀甲の模様の処の穴の処理がなんとも煩い。Tomy Jr.さんは「荒木町のは、きっと穴が大き過ぎてモノが落ちるのであとから穴に細工をしたようです。」とコメントされています。

白いペンキで塗ってあるようにもみえるが、得体の知れない白い棒状のものだが、見ようによっては、何だか虫唾の走りそうな形状をしている。

もう1枚は相模原市淵野辺で採取したもの。相模原市のシンボルの木は何だったろう。これほどシンプル化されてしまうと、何の木をデザインしたのか良く判らない。

何となくだが、落葉樹をイメージしているようだ。栗？クヌギ？それとも森林の里とかをイメージしているのかも。

うさおもこれはチェックしています。日出彦さんは「ばら」と「やまのみじ」をチ



ェックしていたかと思います。

次は和ちゃんから頂きました蓋です。あんまり洋っぽいので、外国のマンホールかと思いましたが、よ〜く見ると長野県のもので、1998年の冬季オリンピックを記念したものでした。この時は外国からいらっしやった旅客のために街の蓋をすべて入れ替えたのかもしれないね。

これは色を入れているので、通常の蓋よりは結構割高になったでしょうが、経済効果を考えるとこのくらいのサービスは必要なのかもしれません。



もう1枚は伊勢市のものでした。和ちゃんをよく、医療関係のお仕事で色んなところに行っていますが、そこで採取されたものなのではないでしょうか。1枚良い蓋を見つけるとその近所に、最初に見つけたのと同じくらいのランクの蓋が転がっているものです。コレクターになれるどうかは、常にカメラを持参し見つけたら何はさておいて

もゲットすることです。チャンスは逃がすと2度はありません。とくに出張中は千載一遇のチャンスを活かしましょう。

この図柄は伊勢参りのものでしょう。江戸時代の昔は道中手形を持たなければ、旅行など出来なかったのですが、この伊勢参りだけは領主の許可を得なくとも旅に出れたようです。

「お蔭参り」、「抜け参り」とも呼ばれていたようで、江戸時代にはアナーキーの香りのする集団行動です。伊勢神宮にお参りするのですが、もっぱらお参りに参加する人



間は、浄土真宗の教徒が多かったようで何だか変だなあという感があります。

左のものは、広島市のもので広島カープと紅葉が配されています。

顔も可愛いし岡山のもも太郎と双璧をなします。



上のものはこれのモノクロバージョンだ。色があるのとないのとでは何かイメージが異なるように思えるのが不思議だ。

さて、左の代物は同じ広島でも三原駅近辺のものである。なんと雑駁なデザインのだ真ん中に、「三」の字が……。安易だ。

三原の町はかつては漁業で発展した町のようなのだ。駅の近くにもう海が迫っていて、駅は昔の海に突き出たお城のだ真ん中を通っている。だから周囲の道路はお濠を埋め立てたものだ。

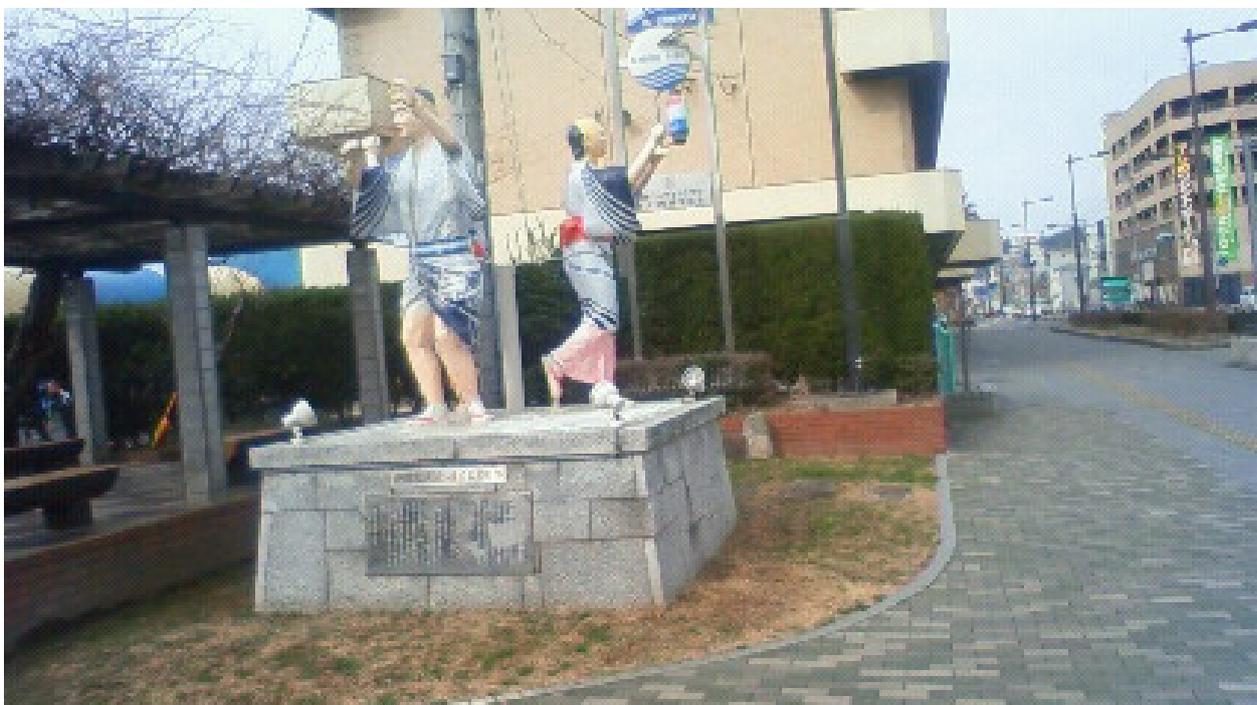




三原の踊りを踊っている図柄は謎だ。  
海に近い小さな公園にも、この踊りを踊っている人たちが等身大で造られてた。何者なんだ。

先ほど述べた三原城は、毛利元就の三男小早川隆景が、築城し浮城とも呼ばれたんだって。

三原の有名人として、愚中和尚(夢窓疎石の弟子)や浅野忠吉、榑崎正員(江戸時代の学者)、並木宗輔(江戸時代の浄瑠璃・歌舞伎の作者)を輩出、文化溢ふるる処らしいです。近年では、丹羽精蔵(明治維新の勤皇の志士)、倉橋誠太(昭和まで生きた剣術・槍術・



砲術の武術家)、高楠順次郎(仏教学者)、沢井常四郎(三原市立図書館の生みの親)、渡辺哲信(世界探検家)と面白い人物を世に送っています。映画監督の田坂具隆(「土と兵隊」、「陽のあたる坂道」、「ちいさこべ」「五番町夕霧楼」など)や新藤兼人(「裸の島」、「おにばば」)も三原の出身です。

さて、その三原の繁華街の車止めは、波止場が近いこともあって、犬鉾とよばれる「ビット」ですが、漁が盛んとあって頭にタコを載せているのが御愛嬌です。皆様の道路の蓋のご投稿をお待ちしています。